

## Interview : 脱炭素の勉強を通じた組織変革

ゼロプラスの村山・宮下です。昨今、避けては通れない経営課題である「脱炭素」。しかし、多くの企業が「何から始めればいいのか」「社員の意識をどう変えるか」という壁に突き当たっています。今回は、弊社の脱炭素伴走支援サービスを受けていただいた伸商機工株式会社の宮川社長にお話を伺いました。そこから見てきたのは、炭素やエネルギー削減以上の「組織変革」という大きな成果でした。



## 伸商機工株式会社様(長野県)

**村山:**脱炭素の取り組みを始めたきっかけを教えてください。

**宮川様:**正直に言うと、最初は世の中の流れに合わせた軽いノリのような部分もありました。かつてISOが取引の条件になったように、これからはカーボンニュートラルに対応しないと仕事が来ないかもしれないという懸念もありました。ただ、自社のような規模ではまだ早いかとも思っていました。そんな時にゼロプラスさんから提案があり、「ダメならやめればいい」という気持ちで試験的に始めてみたのが経緯です。

**宮下:**実際に伴走支援の6ヶ月間のプログラムを終えてみて、いかがでしたか？

**宮川様:**当初は全社員でやりたかったのですが、ハードルを考えて私を含む幹部3名で取り組みました。徐々にテスト勉強というものをしましたね(笑)。繰り返し学ぶことで「日本や世界の潮流」を自分事として理解し、ニュースや新聞へのアンテナの張り方が変わりましたね。中でも、一番の大きな発見は、「幹部の意識が少しずつ変わってきたこと」です



伸商機工株式会社 宮川社長



オリジナルブランド「まるのび商会」

**宮下:**宮川社長だけでなく、幹部の方にも良い影響があったのですか？

**宮川様:**以前は、私が「やれ」と言ってもなかなか動きませんでした。今では幹部が自発的に動くようになりました。例えば、土日のコンプレッサーの電源落としなど、細かな節電に対する行動が浸透し始めています。また、「不良品を作ることは、二酸化炭素を無駄に出すことだ」という共通認識ができたことで、歩留まり向上のための話し合いが、現場レベルで活性化しました。残業を減らして効率的に働こうという空気感も、この活動から生まれています。

**村山:**単なる環境対策を超えて、経営の効率化に繋がっているんですね。とても素晴らしいと思います。

**宮川様:**ありがとうございます。最初はブランディングや話題性を期待していましたが、結果として「幹部と同じベクトルを向くための教育機会」として非常に価値がありました。自分たちで炭素の発生量を計測し、勉強して、成功体験(テストの点数)を得る。このプロセスがあったからこそ、脱炭素が「やらされる仕事」から「自分たちの経営課題」へと昇華されたのだと感じています。

**村山:**ちなみに、伴走支援のテストを基にした当社主催の「GXチャレンジ検定」が環境省脱炭素アドバイザー認定資格として2月に認可されました。もし良かったら受けてみてくださいね。

**宮川様:**勉強した内容覚えているか不安ですね(笑)。

会社名:伸商機工株式会社  
住所:長野県須坂市大字米持156番地1  
電話番号:026-246-8899  
会社HP:<https://sinsyo-kk.co.jp/>



<p>当社HP</p>  <p>ゼロプラスの歴史や理念、事業内容をご紹介します！</p>	<p>カタログ補助金.com</p>  <p>省力化補助金(カタログ注文型)対象設備を簡単検索！</p>	<p>CO2比較.com</p>  <p>脱炭素に関する最新情報を随時公開！</p>	<p>Youtube</p>  <p>当社の会社紹介や脱炭素セミナーを動画でチェック！</p>	<p>Instagram</p>  <p>ゼロプラスの雰囲気や従業員たちの楽しい日常！</p>	<p>公式LINE</p>  <p>大場社長 大場社長 ゼロプラス 補助金・脱炭素などのお役立ち情報を配信！</p>	<p>問い合わせ先 〒 664-0858 兵庫県伊丹市西台1-5-7 2F TEL 072-764-5340 FAX 03-6800-5265 Mail info@zeroplus-consul.co.jp</p>
---	--	--	---	---	--	---

## 脱炭素ニュース:次世代太陽光発電

再生可能エネルギーの利用が進む中で太陽光発電の導入が増加していますが、近年は環境への悪影響や、設置に対する制約が多いことが問題になっています。こうした問題の解決につながると期待されているのが次世代の太陽光発電です。

次世代の技術として特に注目を集めているのが、ペロブスカイト太陽電池です。ペロブスカイト太陽電池は小さな結晶の集合体が膜状になっているため、軽量で柔軟という特徴があります。フィルムのように薄いため、従来の太陽光パネルでは設置できなかった壁面や、特殊な形状の構造物にも設置が可能です。大阪・関西万博ではスタッフの衣服にも設置されました。現在はペロブスカイト太陽電池を活用したガラス型の太陽電池の開発が進められています。また、従来のシリコン型太陽電池を再設計して、路面に設置する取り組みも行われています。設置場所が限られるという従来の太陽光パネルの問題点を解決し、その耐久性の強さを活かして空間を有効活用しながら発電ができる仕組みになっています。



(出典)積水化学工業㈱HP



(出典)パナソニックホールディングス㈱HP



(出典)MIRAI-LABO㈱HP

## 「板金用バリ取り機」カタログ補助金を使った導入が増加中！

重労働・属人化を自動化！職人の手作業によるバリ取りは時間がかかるだけでなく、粉塵による作業環境の悪化や怪我の恐れも隣り合わせの過酷な工程です。また、「誰がやっても同じ品質」を保つ難しさに頭を悩ませていませんか？そんな現場の課題を解決する「バリ取り機」が、カタログ補助金(省力化投資補助金)を活用してお得にスピーディーに導入が可能となっています。ぜひご検索ください。



バリ取り機一覧

## 代表から一言

トランプ大統領2期目以降、脱炭素の動きは波乱含みですが、地球温暖化に関しては待ったなしの状況です。振り返れば2023年から3年連続で夏は過去最高気温を記録していますし、体感的にも夏の昼間に外出したら生命の危機を感じます。こうした中、企業における環境対応は静かに進展しています。アメリカを代表するAppleはすでにサプライチェーン全体でCO2を60パーセント削減した、と大々的に開示しています。経営者の皆様に脱炭素の重要性をお話すると、『トランプになったから取組む意味ない！』との意見を頂きます。しかし我々経営者が考えるべきは政治面より経済面。ではなぜ大手企業は脱炭素に取り組むのでしょうか？大手企業だけじゃなく中小企業も取組む理由はなぜでしょうか？弊社は、こうした疑問を解消し、中小企業にとって本当に必要な脱炭素サービスを展開しています。アフタートランプを見据えていまから少しずつ動いてみませんか？

